

ANNUAL REPORT 2023  
HIRAKATA CITIZENS  
EMPOWERMENT CENTER

---

特定非営利活動法人  
ひらかた市民活動支援センター  
年次報告書

---

2 0 2 3

## あいさつ

平素より当法人の活動にご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

この度、2023年度の年次報告書(アニュアルレポート)を作成しました。年次報告書という形式では初めての発行となります。

これは、昨年度より取り組みをスタートしている中期計画の見直しの中で出てきた「この会が、どんなことをしているのかしっかり発信したい。」をいう思いをもとに作成しました。ご高覧いただけますと幸いです。

2023年度は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが緩和され、事業の実施を感染状況に左右されずに行えるようになりました。NPOの設立や運営、各種ご依頼や問い合わせなどの相談件数がコロナ期に比べて増加し、NPOの始動・再開に向けて寄与することができました。

また、若い年齢層の人たちに地域や市民活動に関心を持つきっかけを作る取り組みは大きく成長を遂げています。

2018年度にスタートした「学生ディスカッション」は、コロナ禍の2022年度に「ボランティア体験」に形を変え、これまでに延べ500人超が参加しました。2023年度からは受け入れを行う団体に各校区コミュニティも加わり、体験できる活動の幅を拡大しています。

これもひとえに、皆様からの温かいご支援とご協力の賜物と深く感謝しております。

2024年度もNPOの活動支援、他の組織・セクターとの橋渡し、それぞれの組織が持つ「得意」をコーディネートするといった中間支援組織としての役割に邁進するとともに、これからを見据えた活動・運営のブラッシュアップに取り組んでまいります。私たちの活動が枚方になくはないものであると一層実感していただけるよう、努力を重ねていく所存です。

結びにあたり、皆様におかれましては、引き続きのご支援とご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 ひらかた市民活動支援センター  
理事長 渡邊 宏二



## 設立まで

2000年10月に枚方市が行政とボランティアの連携を目指し、ボランティアサポートセンターの運営の検討を市民に呼びかけました。

これに応募した市民が市民活動の現状を解析し、これに対応した中間支援組織のあり方を提言、その後メンバーの変遷と検討組織の発展を図りながら市との協議を重ねた結果、市民が主体性を持って運営する、市民活動団体のための中間支援組織が生まれました。

発端は市の呼びかけではありましたが、次第に市民が積極的に関わるようになり、最後は市民のボランティアな心で作りました。

- 2001年 3月 ○ 『(仮称)ボランティアサポートセンター創設について』を市長へ提言
- 2001年 7月 ● ひらかたNPOセンター運営協議会設立準備会を設置
- 2002年 3月 ● ひらかたNPOセンター運営協議会(任意団体)発足
- 2002年12月 ● 法人格取得
- 2007年 4月 ● 「特定非営利法人ひらかた市民活動支援センター」に改称

## 設立趣旨

社会の複雑化と流動化に伴うニーズの多様化、自らの好みと価値観に基づいて行動する市民、私たちを取り巻く社会は今大きな変化の中にあります。このような社会において行政・企業が提供できるサービスや情報と、市民のニーズに大きな落差が生じるのは当然のことでしょう。これを埋めるには、互いの立場や価値観を尊重し、柔軟で機動的な活動が可能な新しいセクターの存在が不可欠です。ここに、社会貢献活動を行う民間非営利組織としての市民活動団体、NPO発展の意義があります。このように、新しい市民社会実現の担い手として期待を寄せられながら、NPOは未だ行政・企業に次ぐ第3のセクターとしての評価には程遠いものがあります。NPOがこの期待に応え、社会貢献できる姿を求めてその支援のための中間支援組織立上げが各地で始まっています。

私たちは、枚方市において、市民活動が盛んになり、多くのNPOが生まれ育ち、自立した市民による新しい市民社会が実現することを願い、**「人と人とが支え合い心豊かにともに生きるまちの『わ』(和と輪)を市民の知恵と活力を結集した市民活動の面から広げていこう」と**、2000年11月より鋭意検討を重ねてまいりました。

そしてここに、多様な価値観の並存を受容する新しい市民社会実現の担い手としてのNPO誕生・発展を支援することを目的とし、行政・企業とのパートナーシップをもとに、活動の組織的基盤をより一層確立し、自らも情報公開と責任ある体制を築き、同時に幅広い市民の参加を願って、中間支援組織、特定非営利活動法人「ひらかたNPOセンター運営協議会」の設立を決意いたしました。

この目的達成のために、私たちはNPOの創設・運営支援、民・官・産・学との連携、地域社会とのネットワーク構築、市民に対する市民活動参加のための情報提供、これらのための情報収集・提供、調査・研究等の事業を市民とともに実施し、市民の期待に応え、地域社会に貢献してまいります。

平成14年8月4日

project

# サプリ村野NPOフェスタ2023



来場者数 3,000人

NPOフェスタは「NPOの元気さと有用性を地域社会に発信」「団体がお互いに支え合う仕組みづくりの一機会とする」「市民・行政・企業・学校などが市民活動へ参画、協働し、より良い地域社会づくりを目指す」ことを目的とした事業です。当法人の発足当初から「ひらかたNPOフェスタ」として毎年実施してきました。

2023年度は名称を「サプリ村野NPOフェスタ」に変更し、『出会いにぎわい高めあう』をテーマに43団体（登録団体39、サプリ村野内団体2、その他2）が参画し、10月22日(日)に52出展を開催しました。団体・企業・店舗など45団体による、協賛・協力などの支援も受けました。

運営では「より参加団体が主体的に参加できる仕組みと体制」を目指し、各出展に関わる団体による屋内・屋外・体育館の出展エリア部会や、各エリアの代表者などを集めた会議を別に設けました。実行委員会と共に、団体が主体的にフェスタの運営に関与できるよう場を設定しました。



## 主催

サプリ村野NPOフェスタ2023実行委員会  
特定非営利活動法人ひらかた市民活動支援センター

## サプリ村野NPOフェスタ2023実行委員会

実行委員長 竹安 庄平  
副実行委員長 平井 亜希子、谷山 佐枝子



ボランティアスタッフ 57人



## 学びの広場（研修事業）

市民活動への参加や市民活動団体の円滑な団体運営の推進のため、「NPO基礎講座」など、市民活動・NPOに関する各種講座を開催し、人材育成を行っています。

また、市民団体に対して講座等の開催の機会を提供し、市民活動の活性化と自立を支援しています。

- 研修講習会 計13講座
- サプリ村野学校(講座支援事業) 計20団体実施



2023.12.16 NPO基礎講座

## 防災支援事業

防災に関する調査研究と成果の発信・防災に関する事業の企画・実施及び実施に伴う関係機関との連絡調整・東日本大震災などの被災地へ、継続的な支援を行っています。



2024.3.31 むらの防災小学校

- 出張防災講座 9件
- 防災講座 2講座
- 防災イベントの主催(むらの防災小学校) 1回
- 交流会(意見交換会) 1回
- 被災地支援活動 3件
- 防災イベントへの参加 3件

## その他の事業

- 「サプリ村野」運営管理
- 情報発信事業
- まちづくり井戸端会議
- 協働連携事業
- 市民活動に関する相談受付
- 市民活動ネットワークルームの運営
- 行政と市民による意見交換会の実施

市民活動団体のお知らせを掲載する「ひらせんなび」

# 地域貢献NPOサポートファンド(ふれあいファンド)

NPO(市民活動団体)を積極的に支援するため、企業等からの寄付金および賛同者からの賛助金を基にして、2005年度に「地域貢献NPOサポートファンド(ふれあいファンド)」を創設しました。これまで地域のまちづくりに貢献されてきた団体に対して顕彰する表彰事業と、新しい市民社会をつくるアイデアに満ちたユニークな企画提案に対して支援しています。

2023年度は、従来の「企画提案型」「活動実績型」と、災害支援の活動をしている、またこれから活動する団体のための特別枠「災害支援コース」を設け募集しました。

1次(書類)と2次(公開プレゼンテーション)審査を経て、団体を選び、11月30日の第2回理事会で贈呈式を行いました。

- 企画提案型  
**NPO法人えほんのお部屋ひまわり畑**  
『からころりん  
～絵本とおもちゃとボードゲームの広場開催事業』
- 活動実績型  
**ひらかたプレーパーク実行委員会**

※「災害支援コース」は応募団体なし

## 登録団体への支援

公益性のある非営利活動団体、社会貢献活動を行っている団体などが登録しています。登録は1年ごとに更新となります。登録団体へ、枚方市内各施設への配架用のチラシ等配達、備品の貸出、大型プリンターでの出力など様々な支援をしています。

**2023年度 登録団体数 166団体**

2024年2月15日時点

○ 2023年度利用状況アンケート結果 ※ 複数回答可



(利用なし、未回答 21)

## 協働組織、委員会

### 参画団体

ひきこもり等地域支援ネットワーク会議  
枚方フェスティバル協議会  
ひらかた環境ネットワーク会議

### 登録・協働中間支援組織

KNN・北摂ネットワーク  
日本NPOセンター  
大阪NPOセンター  
大阪ボランティア協会

### 審議会等への委員派遣

枚方市社会福祉協議会  
市民ふくしチャレンジ基金選考委員会  
枚方市技能勤労者表彰審査会  
枚方市人権尊重のまちづくり審議会  
枚方市地域密着型サービス等運営審議会  
枚方市男女共同参画推進審議会  
枚方市施策評価員  
枚方市まち・ひと・しごと  
創生総合戦略に関する意見聴取会

## 登録団体への支援

### 登録団体の状況

当法人には、多くの市民活動の団体が登録し、さまざまな利用をしています。分析を行った2023年11月時点では160団体が登録していました。

団体の法人格の有無では、認定を含む特定非営利活動法人(以下「NPO法人」とする)が41団体、他の法人格は11団体で6割以上が任意団体です。NPO法人の内、主たる事務所が枚方市以外の法人は13団体と3分の1にあたり、その内3団体は枚方支部として登録されています。また、他の法人格を持つ団体も枚方支部として4団体が登録されています。(図1)

NPO法人の活動目的については、内閣府が示している20の分類があります。各団体には主たる活動目的を登録時に選択して記載をお願いします。「学術、文化、芸術又はスポーツの振興」がもっと多く、次いで「保健、医療又は福祉の推進」、「子どもの健全育成」となって、この3分類で6割強となっています。(図2)

図1 法人格の有無の状況

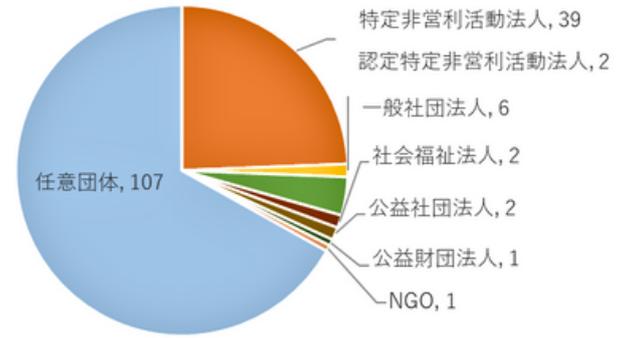
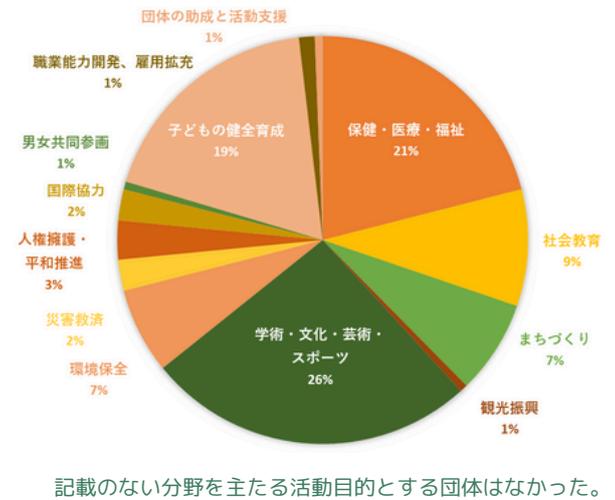


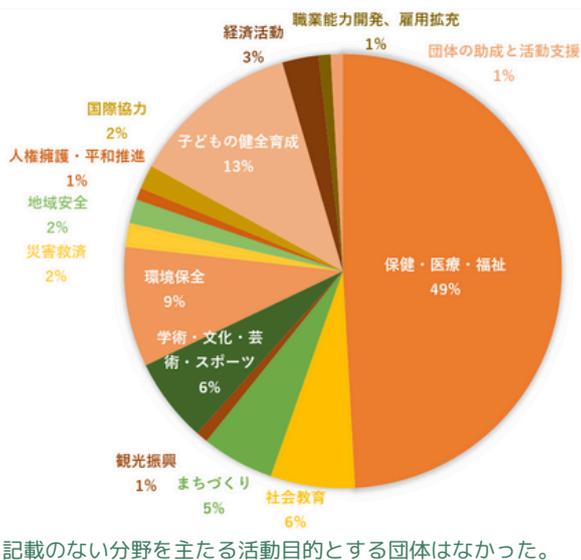
図2 団体の主たる活動目的



### 登録団体で最も多い分野は「学術、文化、芸術又はスポーツ振興」

## 枚方市内のNPO法人と登録団体

図3 枚方市内の主たる活動目的



内閣府のNPO法人ポータルサイトから主たる事務所が枚方市にある法人を検索抽出して簡単な分析を行いました。112のNPO法人が市内を事務所として活動し、センターに登録している法人は4分の1の29法人に留まっています。

枚方市内NPO法人の主体たる活動目的を登録情報から推計した結果が図3です。「保健、医療又は福祉の推進」が半数の55団体と最も多く次いで「子どもの健全育成」が14団体です。全国のNPO法人を調査したデータ<sup>注1</sup>によると最も多い目的は「保健、医療又は福祉の推進」約30%、次いで「社会教育の推進」と「子どもの健全育成」が約25%となっています。傾向としては同様と考えられます。「保健・医療・福祉」がより多い傾向にあるようです。

# 2023年度 相談事業

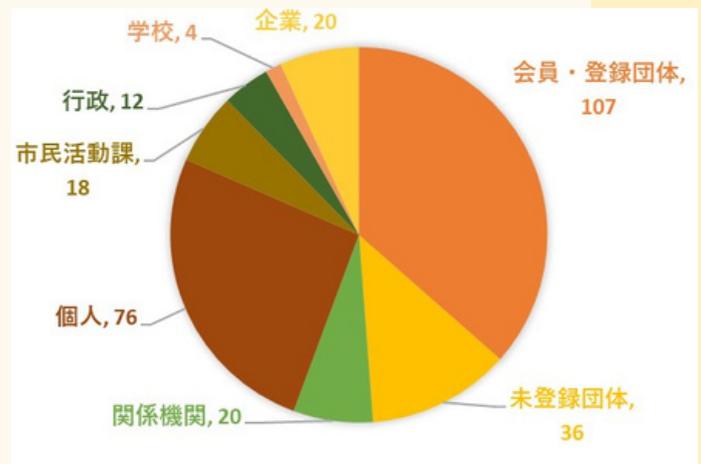
相談対応件数 298件

## 相談内容

NPOに関する総合情報センターとして、様々な団体・個人からの相談や問合せに対応しています。2023年度の対応件数は298件でした。

対象団体の内訳は図4です。(関係機関は市内の公共施設や大阪ボランティア協会などの広域的な情報提供を受けている団体としています)これらの内、市民活動課や行政からのサプリ村野運営に関連する内容と企業からの営業情報などを省いた255件の相談内容を分類したのが、図5です。

図4 相談対象団体内訳



## 相談分類

夏春のボランティア体験活動が2年目を迎えボランティアではこれに関しての相談・問合せが増えています。(相談・問合せとして、法人設立とセンター事業に関するもので明確に分類できるものは、それぞれの名称で分類しています。問合せは、比較的簡単な情報提供で済むもの等とし、相談では、組織運営や事業拡張、また法人事務処理など来所より丁寧な対応が必要となったものと区分しています。)

法人設立では、昨年度より増えている(昨年12件)。提出する書類の「定款や事業計画書の確認をして欲しい」といった詳細な相談対応を行っています。

組織運営の相談として、経理事務体制の相談や税務処理に関する件、事業開催に伴う市等行政の後援名義取得方法、推薦書などの相談もあります。

図5 相談内容の分類

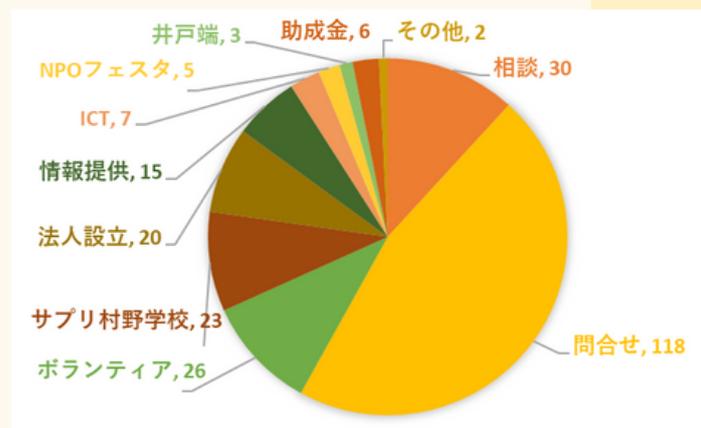


図6 問合せの内容の分類



## 問合せの分類

問合せ件数が118件を更に分類したものが、図6です。一番多い「照会」は情報の確認・提供、配架はセンターより市内公共施設へのチラシの配布に関するものです。また「事務」としているものは、センター貸し出し備品やコピーサービスの利用について、「施設管理」は、サプリ村野の利用に関する問合せです。

注1：“NpoNews”サイトより . <https://nponews.jp/article/bunyabetsu-npo/>

## 組織

当法人は、会員による総会、役員（理事・監事）による理事会（理事常任委員会）、運営委員・職員による運営委員会、各事業の実行委員を含むボランティアスタッフで各事業を行っております。

## 会員数 2024年1月末時点

会員数	94（内76が団体）
賛助会員数	9（内8が団体）

## 2023年度役員 50音順。2024年3月末時点。所属と役職は2024年5月末時点のものです。

役名	氏名	所属等
理事	梅田 壽雄	(特非)ニッポン・アクティブライフ・クラブ NALC「天の川クラブ」副代表
//	大川 洋司	枚方信用金庫 専務理事・地方創生推進部長
//	木崎 大介	(一社)枚方青年会議所 理事長
//	高井 啓大郎	(一社)のあつく自然学校 代表
//	高尾 千秋	(特非)キッズナビわかば 副理事長、ひらかたプレーパーク実行委員会 副会長 (特非)ひらかた市民活動支援センター 運営委員
//	竹安 庄平	郷美乃会 顧問、サプリ村野NPOフェスタ2023実行委員長
//	丹後 勇次郎	枚方渚釣友会 代表
//	津熊 友子	(特非)ひらかた市民活動支援センター 運営委員 図書館フレンズ・ひらかた 代表
//	中川 雄二	みんなでつくる学校とれぶりんか 代表、NPO法人ネットなかま 代表理事 (特非)ひらかた市民活動支援センター 運営委員
//	久 隆浩	近畿大学 総合社会学部環境・まちづくり系専攻 教授
//	藤田 典史	税理士、藤田典史税理士事務所 (特非)ひらかた市民活動支援センター 副理事長
//	堀 威士	コマツユニオン大阪支部 書記長
//	松元 広樹	(特非)ひらかた市民活動支援センター 副理事長 運営委員長
//	渡邊 宏二	(特非)ひらかた市民活動支援センター 理事長
監事	石倉 研	龍谷大学政策学部 准教授
//	川添 賢史	行政書士

## 運営スタッフ 2024年3月末時点

● 運営委員  
5 人

● 職員（サプリ村野受付、市民活動ネットワークルームで勤務）  
常勤 2 人 非常勤 16 人

## ボランティアスタッフ (各事業の実行委員を含む)

● 登録数 32人

広報物の配送、市民活動ネットワークルームの書類整理や装飾、防災災害支援、ボランティア体験プログラム発送準備、サプリ村野NPOフェスタの企画・運営補助、などで活動



ボランティアスタッフが作ったバルーンアート

## 会計 第22期(2023年4月1日から2024年3月31日まで) / 単位：円

### 経常収入

会費	311,000
寄付金	356,500
事業収益	36,239,882
その他収益	100,186
合計	37,007,568

### 経常費用

事業費	31,088,947
管理費	5,084,051
合計	36,172,998

当期正味財産増減額 834,570

第22期についても正味財産を増加させることができました。なお、当期正味財産増減額より8.3万円を地域貢献NPOサポートファンド(ふれあいファンド)に繰り入れています。

今般の物価上昇への対応やより質の高い活動を展開できるよう活動資金の獲得に努めていきます。

財政状況については、資産の大部分を現預金で占めており、健全な状態で運営を行っています。

**HIRANPO (ひらんぽ)** は、  
ひらかた市民活動支援センターの  
公式キャラクターです。  
NPOや市民活動を応援するため  
宇宙からやってきました！



「特定非営利活動法人 ひらかた市民活動支援センター 年次報告書 2023」  
第22期 (2023年4月1日-2024年3月31日)

印刷：2024年8月

編集・発行：特定非営利活動法人 ひらかた市民活動支援センター			
〒573-0032 大阪府枚方市岡東町15-22 TEL：072-805-3537 FAX：072-805-3532 Email：info@hirakatanpo-c.net HP：https://hirakatanpo-c.net			
ひらせんSNSでも 情報を発信中です！  イベント情報や メンバー募集など  ➤➤	Instagram @hiracen_info 	X(旧Twitter) @hiracen_info 	Facebook @hiracen 